

認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成22年3月
奈良市（奈良県）

ポイント

計画期間；平成20年3月～平成25年3月（5年1月）

1. 概況

既に奈良の名物行事となっている「なら燈花会」や「バサラ祭り」に加え、平成21年には全国的に人気を博した阿修羅像の特別展が行われ、市内外から多くの人々が中心市街地を訪れた。

それに呼応するように、近代産業遺産であるJR旧奈良駅舎をリニューアルした奈良市総合観光案内所（平成21年7月開館）も多くの観光客で賑わっている。

しかし、新型インフルエンザの流行や円高による旅行客減少を避けることは難しく、奈良市内の主な観光スポットを含む中心市街地には深刻で多大な影響を及ぼした。

奈良のシンボルロードである三条通りの拡幅に関しては、依然として立ち退き問題等はあるものの、今年8月に本整備が一部完成する予定である。

今年4月からは平城遷都1300年祭が本格的に開幕し、中心市街地活性化に勢いがつくことが期待される。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	見通し
訪れたいまち	文化・観光施設の年間入込客数（中心市街地主要7施設）	246,576人 （H18）	291,720人 （H24）	252,715人 （H21）	
歩きたいまち	歩行者・自転車通行量（休日）	84,993人 （H17）	91,230人 （H24）	79,813人 （H21）	
活力のあるまち	小売業年間商品販売額	435億円 （H18）	466億円 （H24）	平成23年度 フォローアップ	

注）取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

平成21年は、新型インフルエンザや円高、経済状況の悪化を受け入込客数、通行量ともに減少した。特に通行量に関しては調査日の悪天候の影響が大きかった。

しかし、平成22年は平城遷都1300年祭が開催されるなど明るい話題もあり、引き続き最大限の努力をしていくことで目標達成は十分可能であると見込まれる。

4. 今後の対策

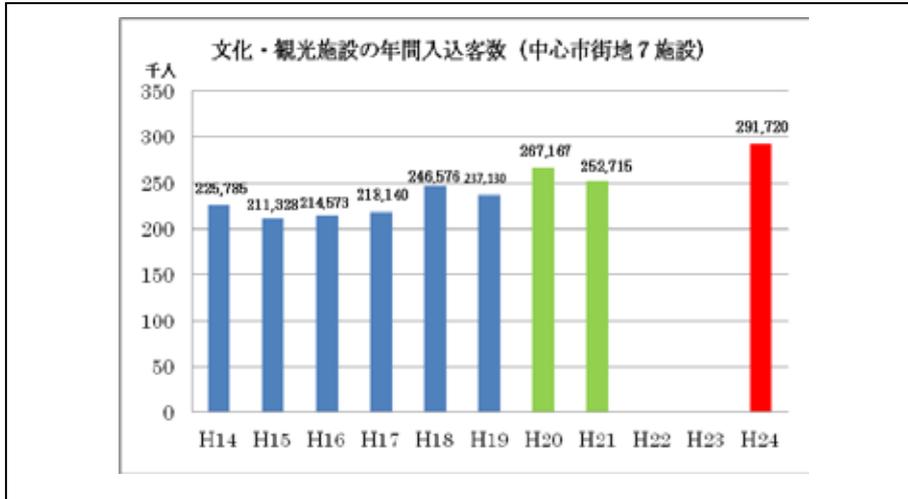
いよいよ平城遷都1300年祭を迎え、平成22年は初めて奈良を訪れる人が例年に比べて多いと見込まれるので、奈良リピーターを確保するためには今年の取り組みが肝心である。

奈良に良い印象を持ってもらうためにも、事業の円滑な遂行と、新たな核となるような新規事業の掘り起こしを行なっていく。

目標「訪れたいまち」

「文化・観光施設の年間入込客数(中心市街地主要7施設)」 目標設定の考え方基本計画 P67 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H18	246,576 (基準年値)
H19	237,130
H20	267,167
H21	252,715
H22	
H23	
H24	291,720 (目標値)

調査月；平成 21 年 1 月～平成 21 年 12 月

調査主体；奈良市

調査対象；ならまち振興館、ならまち格子の家、名勝大乘院庭園文化館、杉岡華邨書道美術館、なら工芸館、なら奈良館、(ならまち舞台縁起座[明新]は、開館しだい調査対象に含める。)

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・なら工芸館活用事業 (奈良市)

事業完了時期	【実施中】平成 12 年度～
事業概要	「なら工芸館」を活用し、奈良工芸の振興及び後継者の育成を図るとともに、工芸品の展示や工芸フェスティバル、各種企画展等により観光客にも親しんでもらう。
事業効果又は進捗状況	<p>新型インフルエンザの流行等により年間入館者数が前年比で約7千人減少した。また、館主催事業(制作教室)のマンネリ化も入込客数減少の要因として考えられる。</p> <p>今後は午前中にも教室開催をし、新たな教室の開催を計画している。さらに、観光推進のキャッチフレーズである「奈良の朝」に合わせて、早朝からの入館者獲得を目指す。</p>

・音声館、ならまちセンター、ならまち振興館、名勝大乘院庭園文化館、杉岡華邨書道美術館の活用（奈良市）

事業完了時期	【実施中】平成元年～
事業概要	上記の施設を利用し、芸術、文化の振興を図るとともに、観光客の誘致及びならまちの保存と賑わいの実現を図る。
事業効果又は進捗状況	<p>新型インフルエンザの流行等により年間入込客数が昨年比で約5千人減少した。</p> <p>名勝大乘院庭園文化館に関しては、今後、隣接する名勝大乘院庭園が公開されるとともに、指定管理者がJR西日本グループの奈良ホテルに代わり、広報活動の充実をはじめとする民間活力の活用が図れるようになる。</p> <p>音声館に関しては、従来まで事業の多くが地元の人向けであったが、観光客対象の事業も充実させていく予定である。</p>

・ならまち舞台縁起座〔明新〕による効果（株式会社明新社）

事業完了時期	【未】平成21年度
事業概要	印刷工場であった建物を楽屋舞台としてリニューアルし、新たな芸能・芸術を発信するキーステーションとする。
事業効果又は進捗状況	世界的な経済不況の影響を受け、当初予定の事業内容の見直しを行っている。

・正倉院展関連スタンプラリーイベント「はじまりは正倉院展」事業（奈良市中心市街地活性化研究会）

事業完了時期	【実施中】平成18年度～平成24年度
事業概要	毎秋に開催される正倉院展の来館者に、商店街まで足を運んでもらうため、まちづくり団体や近隣の大学が中心となって始めたスタンプラリーイベント。文化・観光施設にもスタンプを設置している。
事業効果又は進捗状況	<p>年々参加者が増加する傾向にあり、リピーターも付き始めている。</p> <p>平成22年は平城遷都1300年祭に合わせ、より魅力的で充実した内容のイベントを目指す。</p> <p>参加者数推移</p> <p>平成18年 3,066人</p> <p>平成19年 5,863人</p> <p>平成20年 7,852人</p> <p>平成21年 7,689人</p>

・「なら燈花会」推進事業（NPO法人なら・燈花会の会）

事業完了時期	【実施中】平成 11 年度～
事業概要	毎夏、奈良公園一帯をろうそくの灯りで彩り、訪れる人に幻想的な奈良の夏の夜を楽しんでもらう。
事業効果又は進捗状況	知名度も上がり、阪神なんば線開通の効果もあって、県外からの観光客が増加した。また、関東方面及び海外（西安・ハワイ）でも宣伝を行っているため、遠方からの観光客も増加している。 平成 20 年は、過去最高だった昨年を上回り、79 万 7 千人の人出だった。 まちづくりのモデルケースとして取り上げられることも多く、ろうそくとカップがあればどこでも同様のことが行えることから、各地で類似のイベントが行われるようになった。今後はそれらとの差別化を図り、奈良ならではの歴史遺産や伝統行事との連携を一層深める必要がある。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成 21 年の年間入込客数が前年より減少した要因はいくつか考えられるが、最大要因は新型インフルエンザの流行であると思われる。次に経済状況の悪化、また、海外からの観光客に関しては円高の影響で大幅に減少したことも要因の一つであろう。さらに、なら奈良館に関しては、入居している駅ビル改装のため、3 週間休館をしており、少なからず影響を与えた。

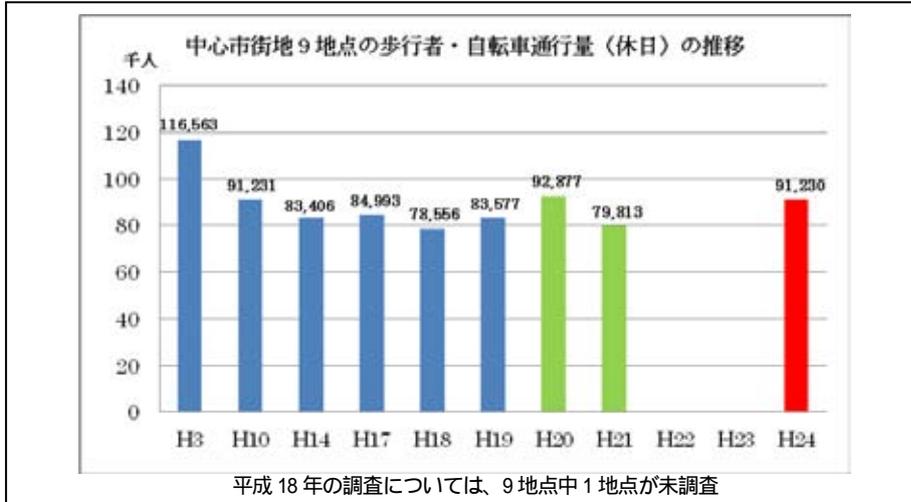
今回の調査で唯一、年間入込客数が前年比で増加したならまち格子の家は、ミシュラン観光ガイドに掲載された効果が大きかったと考えられる。

平成 21 年はマイナスに加担する要素が大きく、入込客数の減少は避けられなかったが、引き続き事業を進めることで、目標達成を目指していく。

目標「歩きたくなるまち」

「歩行者・自転車通行量(休日)」 目標設定の考え方基本計画 P67 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H17	84,993 (基準年値)
H19	83,577
H20	92,877
H21	79,813
H22	
H23	
H24	91,230 (目標値)

調査月；8月

調査主体；奈良市中心市街地活性化協議会

調査対象；歩行者と自転車、休日9地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・ならまち舞台縁起座 [明新] 整備事業 (株式会社明新社) 【再掲】 P4 参照

・テナントミックス事業 (株式会社桶谷)

事業完了時期	【済】平成 20 年度
事業概要	長らく空き店舗となっていた施設を、近隣からの要望が多かった食料品を扱う店舗として再生させる。また、店舗前の広場を多目的スペースとして活用する。
事業効果又は進捗状況	順調に営業を続け、歩行者と自転車通行量の増加に寄与している。平日の通行量調査では平成 15 年比 160 人減少したものの、9 地点の平均 1,711 人減少よりも大幅に減少率が小さかった。 平成 21 年はレンタルスペースで、奈良県主催のお見合いパーティー、試飲会、朝市や商店街主催のガラポン抽選会等を行い、今後も継続して各種イベントを実施する予定である。

・ホテル建設事業（奈良市）

事業完了時期	【未】平成 20 年度～
事業概要	「奈良らしさ」を意識した内装で高規格・高品質のホテルの建設を行い、宿泊機能の強化を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 21 年 3 月に事業主体がホテル建設着手段階で事業からの撤退を表明したため、交渉の末、奈良市がホテル用地を買い戻したが、昨今の社会経済情勢の下、新たな相手方を見つけることは困難であり、今後の目途は立っていない。

・近鉄奈良駅前商業施設「な・ら・ら」整備事業（近畿日本鉄道株式会社）

事業完了時期	【済】平成 20 年度
事業概要	飲食店舗、物販及びサービス店舗からなる商業施設の整備。
事業効果又は進捗状況	平成 20 年 4 月にオープンし、近鉄奈良駅前の路地裏の新たな賑わいスポットとして定着してきたが、平成 21 年は、新型インフルエンザ等の影響により来店者数は減少している。 平成 22 年には集客アップに繋がる各種イベントを実施する意向で、平城遷都 1300 年祭が開催されることも重なって、来店者増が見込まれる。

・奈良まちかど博物館認定・PR 事業（奈良市）

事業完了時期	【実施中】平成 15 年度～
事業概要	近鉄奈良駅から北側のエリアにおいて、伝統の技や仕事場、個人の収集品等を見せ、親しんでもらうよう PR する。
事業効果又は進捗状況	訪れる人は徐々に増加の傾向にある。 また、平成 22 年 4 月にはならまちエリアでも同様の博物館が開館する予定で、多数の来館者が期待できる。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成 19、20 年の調査では連続して前年の通行量を上回っていたが、平成 21 年は 3 年ぶりに前年を下回った。これは、平成 21 年の調査日が台風の影響で悪天候であったことが大きな要因として考えられるので、通行量が減少方向にあると一概には言えない。

また、ならまち舞台縁起座[明新]予定地の一部が、ご当地キャラクター(ゆるキャラ)ショップとして活用されていることや、平成 21 年 3 月に民間が JR 奈良駅前にホテルを開業したことにより、平城遷都 1300 年祭と相まって歩行者通行量増加に寄与するものと思われる。